

### 平成30年の刑法犯・交通事故の状況

県内の刑法犯認知件数は4,052件で、前年と比べて583件減少しました。

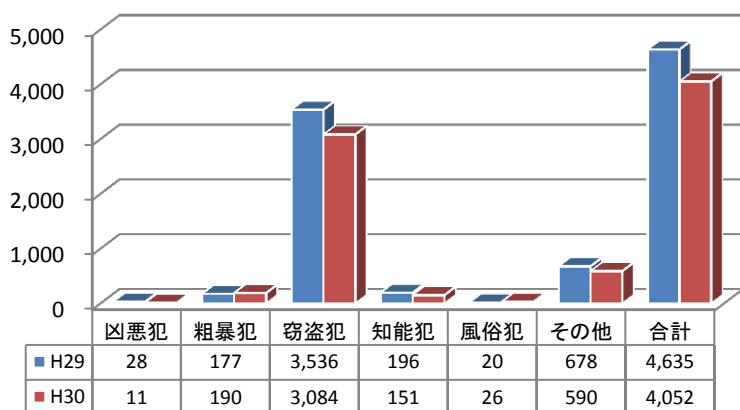
罪種別で見ると、大部分を占める窃盗犯が452件減少したことが大きく影響しています。

窃盗犯のうち、自転車盗や車上ねらい等の乗り物に関する手口や、空き巣等の住宅を対象とした侵入窃盗の手口は、鍵をかけていない状態で被害に遭っている場合が多いことから、短時間でも確実な鍵かけをするなどの自主防犯を呼び掛けていくことが大切です。

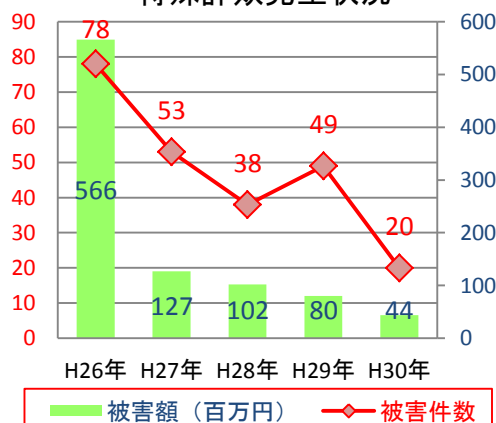
知能犯に分類される特殊詐欺は、認知件数は20件、被害額は約4,418万円で、件数・被害額とも減少しました。

しかし、公的機関を名乗った架空請求はがきの郵送などの前兆事案は依然として多発していることから、「家族や知人同士で声を掛け合う」などして被害防止を呼び掛けていくとともに、被害の拡大を防ぐため、新たな手口に関する広報の実施や、不審な電話やメールなどを受けた場合の警察等への早めの相談を呼び掛けていく必要があります。

刑法犯認知件数



特殊詐欺発生状況



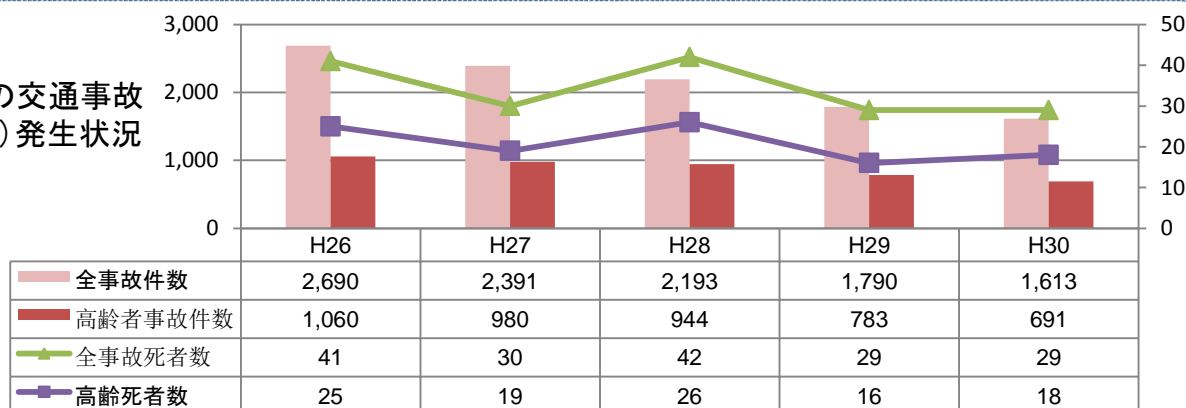
県内の交通事故（人身事故）発生件数は1,613件で、前年と比べて177件減少しました。

死者数は29人で、統計の残る昭和27年以降で最少であった前年と同数で、このうち65歳以上の高齢者の死者数は18人と、前年と比べて2人増加しました。

高齢者の死亡事故を形態別で見ると、歩行中が9人、車・バイクの運転中が4人、車に同乗中が1人、自転車の運転中が4人でした。

高齢者の事故件数は691件で、前年と比べ92件減少しましたが、事故全体の約4割を占める傾向は変わっておらず、また、高齢者の死者数が全体の半数以上を占める状況も続いていることから、高齢者の事故防止を広く啓発していくことが大切です。

県内の交通事故（人身）発生状況



## 少年健全育成事業の一環として アンプティサッカー教室を開催

土佐清水地区少年補導員連絡協議会は、平成30年12月14日（金）、土佐清水市の清水高等学校で、アンプティサッカー日本代表選手の加藤誠さんを招いてアンプティサッカー教室を開催しました。同サッカーは、主に上肢・下肢の切断障害を持った選手がプレーする競技で、クラッチ（松葉杖のようなもの）だけで、気楽に楽しめるのが特徴。加藤さんは、24歳の時に交通事故にあい左脚の膝から下を失うも、同競技を始めて逆境を乗り越えた自身の体験を講話。高校生に、勇気を持って踏み出すことの大切さを伝えられました。



## 地域交流イベントを通じて 安全安心まちづくりを啓発

高知県安全安心まちづくり「みのり会」は、平成30年12月8日（土）、高知市の鴨田小学校で、地域交流イベントとして、山口県岩国市美和町北中山地区の子ども達を招いて「子ども神楽公演」を開催。この公演の中で、安全安心まちづくりの呼び掛けを行いました。イベントでは、高知県青年団協議会会長の森岡千晴さんが、県警の特殊詐欺被害防止音頭や、森岡さん作詞作曲の歌「安全・安心のまち～笑顔の輪～」を披露し、安全安心まちづくりのきっかけとなるイベントとなりました。



## 量販店で防災・防犯イベントを開催

高知警察署、初月交番連絡協議会、初月地区防災連合会は、平成30年11月17日（土）、高知市のサニーマート中万々店で、防災・防犯イベント「第5回みかづきふれ愛フェア」を開催しました。同イベントには、初月地区の各種団体のほか、消防や自衛隊も参加。様々なプログラムを通じて、日頃からの防災・防犯への意識付けを呼び掛けました。



## 量販店で特殊詐欺被害防止等を啓発

高知南警察署と高知中央地区地域安全協会は、平成30年11月30日（金）、高知市朝倉東町のフジグラン高知で、特殊詐欺被害防止等の啓発活動を行いました。啓発活動には、高齢者交通安全アドバイザー、朝倉地区と鴨田地区の地域安全推進協議会員も参加。来店客に対して啓発チラシなどを手渡ししながら、特殊詐欺被害や交通事故防止を呼び掛けました。



□ 安全安心まちづくり会報 編集・発行者  
高知県安全安心まちづくり推進会議事務局

高知県犯罪のない安全安心まちづくりのページ  
<http://www.pref.kochi.jp/soshiki/141601/azenanshin-index.html>



□ 問い合わせ先  
高知県文化生活スポーツ部  
県民生活・男女共同参画課  
〒780-8570 高知市丸ノ内1丁目2番20号  
TEL 088-823-9319 FAX 088-823-9879  
E-mail:141601@ken.pref.kochi.lg.jp